

## 高齢者計画・第6期介護保険事業計画 策定委員会 第2回要旨録

会 議 名	高齢者計画・第6期介護保険事業計画 策定委員会	
日 時	平成26年5月20日(火) 午後2時00分～午後4時00分	
場 所	八王子市役所本庁舎 802会議室	
出席者氏名	委 員	鏡諭、島津淳、久永美幸、野津山貴、吉本由紀、割田みえ子、数井学、山内英史、村上正人、櫻田朋子、岩倉真弓、伊藤光江、田中泰慶、多々井克昌、今澤隆一郎、荒木弘子
	市 側	<p>豊田福祉部長、田口医療保険部長、細川健康部長、  <b>【高齢者いきいき課】</b> 石黒課長、元木課長補佐、吉本主査、相川主事、今川主事、増田主事、中濱主事、野口主事、半沢主事  <b>【介護保険課】</b> 伊比課長、大澤課長補佐、中村主査  <b>【高齢者福祉課】</b> 小林主査、辻野主査  <b>【福祉政策課】</b> 辻井課長  <b>【地域医療政策課】</b> 高橋課長</p>
欠 席 者	文入重鶴	
次 第	<p><b>【議題】</b>  (1) 次期計画に向けた課題と方向性の検討  (2) 計画の骨子・構成の検討  (3) 地域包括ケアシステムについて  (4) 認知症施策の推進について  (5) その他</p>	
公開・非公開の別	公開	
非 公 開 理 由		
傍 聴 人 の 数	2人	
配 付 資 料	<p><b>【事前送付】</b>  (1) 資料2-1 「運営評価で課題吸い上げ頼られるセンター目指して」(月刊ケアマネジメント2014年4月号より)  (2) 資料2-2 「平成25年度 高齢者あんしん相談センター運営評価結果」など  (3) 資料2-3 「平成24年度 地域包括支援センター満足度調査報告書」(介護支援専門員及び民生委員)  (4) 資料2-4 「都市部の強みを生かした地域包括ケアシステムの構築」(報告書及び概要)  (5) 資料2-5 「地域包括ケアシステムの構築について」など  (6) 資料2-6 「認知症施策推進5か年計画(オレンジプラン)」(要点)など</p> <p><b>【当日配布】</b>  (1) 資料2-7 計画事業評価シート(平成25年分)  (2) 資料2-8 今後の圏域設定の考え方について(八王子市地域包括支援センター運営協議会資料より)</p>	

	(3) 資料2-9 計画の骨子及び構成について (4) 資料2-10 「地域包括ケアシステム構築へ向けた取組事例」 (厚生労働省資料より) ※ 資料1-9 スケジュール及び各回での意見交換等概要(差し替え分)
--	---

**【議事内容】**

- 事務局より欠席及び傍聴者の報告
- 座長による開会の宣言

**(1) 次期計画に向けた課題と方向性の検討**

- 事務局より資料の確認と説明

委員：圏域を増やすと当然費用がかかる。八王子市では地域包括支援センターを今まで医療法人と社会福祉法人に委託していた。それは今後も変わらないのか。

事務局：前回の公募の法人要件では株式会社も入っていた。結果として株式会社の応募はなかった。

委員：現状として、医療法人と社会福祉法人だけに委託していることに対する問題もある。その点を含めて何か試案があるのか。

座長：24時間365日対応ということが地域包括支援センターの基本的なスタンスであるため、バックアップするところがないと難しい。そのため委託先が医療法人と社会福祉法人のみになっているのかもしれない。

副座長：人口減少により、今後高齢者減少地域が出てくることが予想されるが、その点についてどのような分析をしているのか。

事務局：高齢者は少なくとも2025年までは増加の一途をたどる見込みだ。それ以降の分析はまだ行っていない。

**(2) 計画の骨子・構成の検討**

- 事務局より資料の確認と説明

副座長：各種メディアにおいて、今回の介護保険制度改正に対する国民の不安について報道されている。本策定委員会ではこの辺りの不安感をどう払拭させるかが大きな課題だ。八王子市民が安心感を持てる項目と内容にする必要がある。

事務局：地域支援事業のガイドラインについては、厚生労働省から今後示される。八王子市は案としては持っているが、具体的な組み立てには至っていない。ガイドラインが示され次第、早急に市民に示したい。

座長：今回の介護保険制度改正は2006年の改正に匹敵する大きなものだ。計画の「第1章 計画の策定にあたって 1.計画策定の背景と趣旨 (2) 社会的な動向」の部分に、今回盛り込まれている介護保険制度改正について記載する必要がある。

### (3) 地域包括ケアシステムについて

#### ●事務局より資料の確認と説明

委員：地域包括支援センター満足度調査は、日常生活圏域の変更があった直後の調査であり、今計画の策定と調査の時期に2年間の開きがある。その間の地域包括支援センターの活動が反映されていないが、その点はどのように対応するのか。

事務局：追加で調査をすることを検討する。

副座長：地域包括支援センター満足度調査の項目には入っていなかったが、医療との連携についてはどのような課題があるのか。

委員：医療と介護の連携は全国的な問題であり、進めていかなければならない。介護に対する医療の関わりで一番重要になってくるのは、緊急時や救急対応をどうするかということだ。医療と介護の連携についてはケアマネジャーが要になる。ケアマネジャーに医療に対する知識を深めてもらうとともに、医療側とケアマネジャーが接触する機会をもっと多くつくらなくてはならない。八王子市の課題としては、医療側から介護側への働きかけがまだ十分ではないことだ。ケアマネジャーはもっと積極的にかかりつけ医師に声をかけてほしい。地域ケア会議には、医師会から地域の主治医の代表として医師が参加しているので、関わりをもっと深めてほしい。

座長：認知症等の初期対応等、医療ニーズがありながら医者にかかれていないという問題や、アルコール依存症等における医療面での支援と福祉面での支援の役割分担をどうするのか、こういったことが地域包括ケアの中に盛り込まれていくのだと思う。

副座長：認知症ケア等での精神科医との連携はどのようになっているのか。

事務局：八王子市では認知症コーディネーターを1名配置し、認知症疾患医療センターと連携して事業展開をしている。次期計画では人数を増やしていくことを検討している。

委員：ケアマネジャーとして地域包括支援センターに求めることは、医療依存度の高い困難ケースの方が増えてきた場合、個別のケースをバックアップしてくれる機能だ。地域包括支援センターの運営評価としても、そういった点をきちんと評価してほしい。

委員：デイサービスでは、延命治療を望まない余命1～2週間の利用者も通っている。デイサービスでもできる限りは受け入れたいが、看護師しかいないため相談できる医師がいない。最後をどう安らかに迎えるか、病院と訪問の医師との連携をもう少しとれるようにしてほしい。最後にどう安楽に亡くなっていくかをアドバイスできる看取りの医師とのつながりができるシステムが必要だ。

委員：介護予防は楽しくないといけない。これから高齢者人口が増えていく中で、ふれあい・いきいきサロン支援事業はまだ十分ではない。高齢者が楽しい時間をすごせる居場所づくりの取り組みをもっと強化してほしい。

副座長：今までの委員の意見をあわせた八王子市独自の包括ケアシステム図をつくってほしい。また、基幹型地域包括支援センターに関する資料も出してほしい。

座長：和光市の「介護保険からの卒業」という取り組みが注目を集めている。今回、予防給付の一部が地域支援事業へ移行することより、自治体の独自性が強化される。介護保険に対する予防の考え方、介護保険はどのような人が使うべきものなのか、八王子市として、新たな地域支援事業をつくる上での哲学のようなものを示す必要がある。

事務局：ふれあい・いきいきサロンは、現在八王子市内で91か所ある。今後サロンの数を増やすとともに、サロンの開催日数も増やしていきたい。また、老人クラブは地域の中のつながりで出来ている大切な団体である。八王子市老人クラブ連合会とも協力しながら、地域の中で高齢者が元気で過ごせるような仕組みをつくっていきたい。地域包括ケアシ

システムは福祉だけでなく、色々な所管課が連携しなければ進めていくことができない。高齢者福祉課が旗振り役となって、これから八王子の地域包括システムの図をつくっていく。今はまだ十分な図を示すことが出来ないかもしれないが、2025年に向けて段々と充実するようにつくっていききたい。

#### (4) 認知症施策の推進について

##### ●事務局より資料の確認と説明

委員：介護の分野は専門的な用語が多い。計画書は幅広い市民が読むため、用語の解説や整理が必要だ。

事務局：第5期の計画書では巻末に用語解説として掲載している。どうすればもっと分かりやすくなるか案を出してほしい。

副座長：側注があると分かりやすい。認知症にプラスして精神疾患を発症した場合、対応が非常に困難であると聞いた。システムにどう反映したらよいのか。

委員：今のところ決め手はないが、早期発見が一番重要になってくる。早期であれば家族も準備ができるし、医師との信頼関係も築きやすくなり、次に起きなくてもよい事を起こさなくてすむようになる。

委員：認知症に関して一番大きな役割を果たしているのは、地域包括支援センターだ。暴力行為等、強調された認知症の症状が発生した場合の相談に対して、地域包括支援センターが対応策を直ぐに示せるようにすることが望ましい。

副座長：認知症高齢者発見時対応フローチャートに個別事例を入れると市民にとって分かりやすくなる。

委員：認知症の早期発見段階で一度歯科検診を受けてもらいたい。認知症が進行してからの歯科治療は難しい。

委員：認知症に伴う粗暴行為等について、民生委員経由で地域包括支援センターによく相談が来る。地域包括支援センターは毎日のように会いに行き、そこでどうやってその人と向き合っていくのか、環境づくりや、介護や医療等に限らずどこかに繋げることが重要になる。認知症高齢者発見時対応フローチャートだけでなく、行方不明にならないように

する仕組みや、早期に発見できるような仕組みについても議論してほしい。

委員：認知症高齢者ネットワーク会議で、新聞販売店等と連携をとることになったが、その後の進展はどうなっているのか。

事務局：現在、日中八王子市内をまわっている 12 事業者と協定を結んでいる。通報用に直通の電話を高齢者福祉課の中に設けており、終業以降は守衛室から担当の課長に連絡が入る仕組みになっている。

副座長：地域支援事業について今後の委員会で検討する時、地域支援事業を担うであろうNPO等を参考人として呼ぶことを検討してほしい。

## (5) その他

●次回会議 7月15日(火) 午後3時00分～午後5時00分 801会議室